

学校教育目標

- ◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- ◎広い視野を持ち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成

普通科

笛吹高校の3年間で身に付けてほしい力

- ・自己の進路目標を明確に持ち、その目標の実現に向けて努力を行う強い心
- ・日々の授業を大切にし、基礎・基本となる学力の定着に努める意欲
- ・自己の時間管理を行い、毎日の継続的な家庭での学習習慣を身につける態度
- ・上級学校のオープンキャンパスやホームページ等を活用して、進路目標の実現に向けて自ら情報収集を行う積極性

1年次の目標

- ・自己と向き合い将来の進路について考える中で、文系・理系の選択に向けた調査を行い、各科目の内容を理解した上で文理の決定を行う
- ・基礎基本の定着に向けた家庭学習時間の確保
- ・各科目の特性を理解し、家庭学習において取り組むべき内容を理解する

2年次の目標

- ・具体的な進路目標の設定を行うことで、3年次に向けた科目履修登録に備える
- ・文系、理系の専門科目が増えていく中で、家庭における学習の積み重ねの大切さを再認識する

3年次の目標

- ・1、2年次に身につけた力をもとに、発展的内容を習得することに意欲的に取り組む
- ・進路実現に向けて日々の授業を大切にしながら、家庭学習により一層の努力を行う

学ぶ皆さんへの助言・アドバイス

5教科の授業は学年が上がるにつれて難易度が増していきます。授業での積み残しが無いように1時間、1時間を大切にしてください。分からないことをそのままにしておくことが最も良くない態度です。「ある授業の内容が理解できない」→「次の授業が更に分からない」→……という負のスパイラルに陥らないよう、授業中や授業後に先生に質問をして理解することに努めましょう。

自己の進路実現に向けて各学年に応じた進路意識が大切です。1年生では将来の「進路分野・方面」、2年生では「具体的な志望校の決定」が最低ラインです。進路目標がはっきりとすることで、日々の授業に対する意欲も変わってくるはずです。自己と向き合い、将来を見つめることが高校生にとって大切なこととなります。

自己の進路実現に向けて日々の授業を大切に、家庭学習の習慣をつけ、模擬試験で力試しを行い、出来なかったことを家庭学習や先生に質問をして補っていく、という生活ができるようにしましょう。

	教科	科目	
1	国語	現代文B	
2	国語	古典B	
3	地理歴史	日本史A	選択1
4	地理歴史	地理A	選択1
5	地理歴史	世界史B	選択2
6	地理歴史	日本史B	選択2
7	数学	数学Ⅱ	
8	理科	物理基礎	
9	理科	生物基礎	
10	保健体育	体育	
11	保健体育	保健	
12	外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	
13	外国語	英語表現Ⅱ	
14	情報	社会と情報	

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		国語 現代文B	単位	2	履修区分	必修	・必修	・選択
対象学年・類型・コース		2年 普通科・総合学科						
使用教科書		『新編 現代文B』教育出版(現B328)						
副教材		カラー版 新国語便覧(第一学習社)						
目標とする 生徒の将来像		国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。						
評価の観点		①【関心・意欲・態度】国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 ②【話す・聞く能力】目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 ③【書く能力】相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 ④【読む能力】文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 ⑤【知識・理解】伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・方法 ※テスト=定期考査含	自己 評価			
1 学期	第1回定期試験 5/21~	・セレンディビティ	・日常のささいなことに目を向け、自分の関心の幅を広げる ・自分の考えが的確に伝わるよう工夫する力(構成・文体など)	④ノート・発言 ③作文 ④テスト ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C			
	第2回定期試験 7/3~	・ゲラダヒヒの平和社会 ・現代の俳句・短歌	・科学的な文章から筆者の主張を正確に読み取る力 ・日本の伝統文化としての俳句や短歌を鑑賞し、独自の技法を学ぶ ・ことばや表現から作品世界を深める想像力	④ノート・発言 ⑤音読 ③短歌・俳句作品 ④テスト ②グループワーク ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C A B C A B C			
2 学期	第3回定期試験 10/2~	・山月記	・作品に込められた寓意を受け取り、自身の問題として捉え直す姿勢 ・漢文的な表現を理解し、味わう力	①授業態度の観察等 ③作文 ②相互評価 ④プリント・テスト	A B C A B C A B C A B C			
	第4回定期試験 12/4~	・かんじんなことは、目に見えない? ・菊	・学術的な文章に触れ、多様な表現を学ぶ。 ・恋愛という主題を通して、自分の生き方を見つめ直す姿勢	⑤音読・小テスト ④プリント・テスト ②グループワーク ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C			
3 学期	第5回定期試験 2/22~	・ミロのヴィーナス	・抽象的な言葉が何を指しているのか読み取る力 ・論理的な文章の構成を学び、自分の文章も筋道を立てて書くことができる	④ノート・発言 ②発表 ④テスト ③小論文 ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C A B C			
検定資格(時期)		漢字能力検定を年に3回、校内で受検できる機会を用意する。(8月・12月・2月) 受検費用は級に応じて2000~4000円)2級に合格した場合は「国語総合」に1単位増単できる。						
履修にあたって		1年次で習得した知識や考え方をもとにして、就職試験から大学入試まで幅広く対応する思考力・読解力の養成を目指す。国語は暗記科目ではない。常に自分の頭で考える姿勢を持ってほしい。今年度も漢字テストを行うので、丁寧に、投げ出さず、全回合格を!						

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		国語・古典B		単位	2	履修区分		必修
対象学年・類型・コース		2年 普通科/総合学科						
使用教科書		『精選 古典B 改訂版』三省堂						
目標とする生徒の将来像		古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育むことができる。						
評価の観点		①関心・態度・意欲: 古典を読む力を進んで高め、古典についての理解や関心を深めようとしている。 ②読む能力: まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。 ③知識・理解: 伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・(方法)	自己評価			
1学期	第1回定期試験	○漢文 「桃花源記」 ○説話『古今著聞集』 「大江山」	・桃花源郷の状況と、そこに到達できる人間の条件とを理解する。 ・和歌の修辞法や歌合をめぐる登場人物のやりとりを理解し、説話の世界を読み味わう。	①「桃花源郷」という言葉の淵源としての話に関心を持とうとしている。(行動の観察) ③基本的な句法・語法を理解している。(記述の点検) ②文章を通して、登場人物の行動の意味を読み取っている。(記述の確認) ③和歌の修辞法について理解している。(記述の点検)	ABC 評価			
	第2回定期試験	○随筆『方丈記』鴨長明 「ゆく河の流れ」 「養和の飢饉」 ○漢文小話 「季札挂劍」 「漱石枕流」 「梁上君子」	・筆者の無常観や人生観を読み取るとともに、当時の社会状況について理解する。 ・比較的短い文章を読んで漢文に親しむとともに、登場人物の考え方や話のおもしろさを味わう。	①内容を踏まえて筆者の考え方や当時の社会状況を理解しようとする。(行動の観察) ②筆者の無常観や人生観を読み取っている(記述の確認) ②登場人物の考え方を読み取っている。(記述の確認)	ABC 評価			
2学期	第3回定期試験	○随筆『枕草子』清少納言 「春はあけぼの」 「雪のいと高う降りたるを」 ○物語『源氏物語』紫式部 「光源氏の誕生」	・筆者の美意識やものの見方を読み取るとともに、当時の宮廷生活について理解する。 ・登場人物の心情を状況や行動に即して読み取るとともに、『源氏物語』への理解を深め、興味関心を高める。	②筆者の美意識や機知を読み取っている。(記述の確認) ②登場人物の心情を、それぞれの場面に応じて読み取っている。(記述の確認) ③基本的な敬語法について理解している(記述の点検)	ABC 評価			
	第4回定期試験	○漢文史伝『史記』司馬遷 「史記」	話の展開を読み取るとともに、古代中国の歴史がおもしろさや登場人物の魅力を読み味わう。	①著名な逸話について興味を持ち、内容を深く知ろうとしている。(行動の観察) ②話の展開を理解する(記述の確認)	ABC 評価			
3学期	第5回定期試験	○歌物語『伊勢物語』 「月やあらぬ」 ○軍記『平家物語』 「忠度の都落ち」 ○歴史物語『大鏡』 「弓争ひ」	・登場人物の心情を状況や行動に即して読み取るとともに、和歌の読解と鑑賞を通して歌物語の特徴を理解する。 ・音読を通して語り物の特徴を知るとともに、生死に直面した人間の行動を通して、生き方についての考えを深める。 ・歴史物語の特徴と文学史的意義を理解する。	①物語の展開を理解し、和歌にこめられた登場人物の心情を読み取ろうとしている。(行動の観察) ③歌物語の特徴を理解している(記述の点検) ②登場人物の置かれた状況やその心情を読み取っている。(記述の確認) ①登場人物の境遇を読み取るとともに、歴史物語の特徴を理解しようとしている(行動の観察)	ABC 評価			
履修にあたって		古語辞典や漢和辞典、文法書等を使い、予習に取り組んだり自分で現代語訳したりする姿勢を身につけてほしい。また、授業のポイントを押さえたノート作りに取り組み、積極的な復習ができるよう活用する。						

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		日本史A	単位	2	履修区分	必履修 ・ 必修 ・ 選択	
対象学年・類型・コース		1年普通科 2年普通科(選択者) 食品化学科・果樹園芸科(選択者)					
使用教科書		高等学校改訂版 日本史A～人・くらし・未来～(第一学習者)					
目標とする生徒の将来像		我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
評価の観点		①定期試験 ②授業中の関心・意欲・態度・発問の観点等 ③単元ごとに実施する小テストなど					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学期	第1回定期試験	第1章 近代国家の形成と国際関係の推移 第1節 近代への胎動	・江戸時代の日本の対外関係について理解する。 ・近世後半の産業、教育や学問・思想などの発展について理解し、さらに、これらが近代文化の基盤となったことを理解する。	定期試験 ノート提出			
	第2回定期試験	第2節 明治維新 第3節 近代国家の確立	・明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動が起こり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する	定期試験 ノート提出			
2 学期	第3回定期試験	第2章 近代産業の発展と两大戦をめぐる国際情勢 第1節 近代産業の発展と社会運動の展開 第2節 国民生活の変化と文化	・日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命が起こり、資本主義が確立したことを理解する。 ・資本主義の発展によって産業構造が変化し、これにともない、都市における貧民問題や労働問題など、さまざまな社会問題が発生したことを理解する。	定期試験 ノート提出			
	第4回定期試験	第3節 第一次世界大戦と日本 第4節 第二次世界大戦と日本	・第一次世界大戦に日本が参戦した意図、また第一次世界大戦を通しての日本の外交方針について理解する。 ・中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら、太平洋戦争に至る過程を理解する。	定期試験 ノート提出			
3 学期	第5回定期試験	第3章 現代の日本と世界 第1節 日本の再出発 第2節 独立後の政治と対外関係	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の諸改革の内容について理解する。 ・主権回復後の日本の国内的な政治の推移と、新しい外交関係の確立の動きについて理解する	定期試験 ノート提出			
検定資格(時期)		特になし					
諸費用(予定)							
履修にあたって		ただの暗記教科ではなく、「なぜ?」という歴史的な疑問を持って授業に臨むことが大切である。歴史が苦手な生徒でも、授業内での間に積極的に答えることで、苦手を克服することができる。					

教科・科目	地理歴史・地理A	単位数	2	必修修	必修 選択
学年・系列・コース	2年 普通科(選択)・食品化学科(選択)・果樹園芸科(選択)・総合学科				
使用教科書	高等学校新地理A・新詳高等地図	副教材	なし		
目標とする生徒の将来像	現代世界の抱えるさまざまな課題を地理的に考察・探求し、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。				
評価の観点	①授業中の関心・意欲・態度、発問に対する思考・判断(10%) ②まとめプリントやノートの作業・整理状況などの表現・処理(10%) ③定期考査による知識・理解(80%)				
学期	単元・教材	主たる目標・つきたい力		評価の観点	
1 学期	1部 ・1章 地球儀や地図からとらえる現代社会 1節 地球上の位置と国家 2節 グローバル化が進む世界 ・2章 人間生活を取り巻く環境 1節 生活に影響を与える環境条件とは 2節 人々の生活と地形 3節 人々の生活と気候	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の運動と時差について理解できる。 ・グラフや地図等を作成し、世界の結びつきの変化を理解する。 ・球面上の世界観から世界の諸地域をとらえることができる。 ・自然環境と人間生活の関係について理解する。 ・大自然の地域と都市との環境の違いについて理解する。 ・地形からどのような特徴が読みとれるか理解し、防災 対策まで考える。 ・気候の特徴を学習し、どのように気候が生活に影響しているか 理解し、食事や住居の特徴について考える。 		①②③	
2 学期	4節 人々の生活と産業 5節 人々の生活と文化 ・3章 世界の諸地域の生活・文化 1節 中国の生活・文化 2節 韓国の生活・文化 3節 東南アジアの生活・文化 4節 インドの生活・文化 5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化 7節 ヨーロッパの生活・文化 8節 ロシアの生活・文化 9節 アメリカ合衆国の生活・文化 10節 ラテンアメリカの生活・文化 11節 オーストラリアの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化を理解する目を養う。 ・各国の産業・生活・文化について理解する。 ・それぞれの国の産業の変化についての要因について考えることができる。 ・多民族・多文化の共生の行われている地域についての 諸問題について理解できる。 ・隣国の人々の生活・文化について理解できる。 ・隣国との交流や歴史についてさまざまな側面から考えることができる。 		①②③	
3 学期	4章 地球的課題と私たち 1節 複雑にからみ合う地球的課題 2節 世界の環境問題 3節 世界の資源・エネルギー問題 4節 世界の人口問題 5節 世界の食料問題 6節 世界の都市・居住問題 2部 1章 身近にあるさまざまな地図 2章 日本の自然環境と防災 3章 身近な地域の課題と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模で発生しているさまざまな課題の解決策や対応方法を理解できる。 ・主に先進国で発生する課題と発展途上国で発生する課題の共通点や相違点、それらの影響について理解できる。 ・環境破壊が私たちの生活にどのような影響を与えるか考える ことができる。 ・環境問題の解決のために我々ができることを考え、実行するためにはどうするのか理解する。 		①②③	
検定資格(時期) 諸費用(予定)	なし				
履修にあたって	日頃から国内外の情勢に興味を持ち、知らない場所がでてきたらすぐに地図帳を開く習慣を身につけよう。それだけで世界に対する意識は変わるはず。また、私たちが生きる地域や世界に広く興味を持ち、よりよい生活を送るためにはどうしたらよいのかを考えよう。授業では、白地図作業があるので、色鉛筆を準備しておこう。				

教科・科目	地理歴史・世界史B	単位数	3	必修	・ 必修 (選択)
学年・系列・コース	2年 普通科・総合学科				
使用教科書	世界史B(実教出版)	副教材	アカデミア世界史		
目標とする生徒の将来像	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察し、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と誇りを養う。				
評価の観点	①授業への関心、意欲、態度および、世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現していること。(10%) ②諸資料の収集、有用な情報の選択、読み取り、図表などへのまとめ。(10%) ③世界の歴史について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。				
学期	単元・教材	主たる目標・つきたい力			評価の観点
1 学期	序章 ビッグバンから人類の出現へ 第1章 西アジア世界と地中海世界 1オリエント文明 2オリエントの統一 3ギリシアのポリス社会 4ヘレニズム時代 5ローマ帝国 6イラン民族の国家 第2章 南アジア世界と東南アジア世界 1インド文明 2東南アジア世界と海の道	<ul style="list-style-type: none"> ・人類の起源と発達を「人類とはなにか」という視点に立って考えられる。 ・各地の古代文明の内容とその違いについて理解し、古代文明の後世への影響を考察できる。 ・西アジア世界の地理的特質を把握し、オリエント文明の盛衰を理解できる。 ・地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解できる。 ・都市国家から大帝國に発展したローマ文明の特質とイラン人の活動を理解できる。 ・南アジア世界の地理的特質を把握し、独自のインド文明が成立、発展したことを理解できる。 ・東南アジア世界の地理的特質を把握し、海と結びついた独自の文化を理解できる。 	①②③		
2 学期	第3章 東アジア世界 1中国文明の形成 2中国古代帝國の成立 3 2世紀までの朝鮮半島と日本列島 第4章 中央ユーラシア世界と東アジア世界の展開 1中央ユーラシア世界の國家形成 2胡漢融合帝國の誕生 3 3～9世紀の朝鮮半島と日本列島 第5章 アフリカ世界と南北アメリカ世 1サハラ以南のアフリカの古王國 2南北アメリカの先住民	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア世界の地理的特質を把握し、中国文明の形成から秦・漢帝國の成立について理解できる。 ・中国古代帝國と東アジア諸地域との政治的・文化的な結びつきを理解できる。 ・強大な遊牧國家の成立から遊牧騎馬民族の動向を、中国の諸王朝と関連して理解できる。 ・魏晉南北朝時代の分裂時代をへて隋唐帝國の成立が、遊牧民や漢人など多様な人々を統治する胡漢融合國家であったことを理解できる。 ・唐帝國の影響を受け、朝鮮半島や日本列島で独自の國家形成が進んだことを理解できる。 ・アフリカ世界の地理的特質を把握し、独自の古王國が形成したことを理解できる。 ・南北アメリカ世界の地理的特質を把握し、先住民文化の特色を理解できる。 	①②③		
3 学期	第6章 イスラームの広がり と 西アジア世界の展開 1イスラーム帝國の成立 2各地のイスラーム國家 3イスラームの都市と文化 第7章 ヨーロッパ世界の形成と展開 1ラテン＝カトリック圈の形成と展開 2ビザンツ帝國とギリシア正教圈 3ラテン＝カトリック圈の拡大 4ラテン＝カトリック圈の動揺と秩序の変容 5キリスト教世界のなかの文化 第8章 中央ユーラシア世界と諸地域の交流・再編 1中央ユーラシア諸民族と東アジア世界の變容、2モンゴル帝國の成立 3東南アジア世界の再編 4海域世界の展開と第一次大交易時代 5 10～13世紀の朝鮮半島と日本列島	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームの誕生から大帝國に発展したイスラームの特質とアラブ人の活動を理解できる。 ・トルコ系諸民族によるイスラームの拡大や、インド・アフリカでのイスラーム化の過程を理解できる。 ・ムスリム商人の活動が、イスラーム諸都市を結ぶ国際商業ネットワークをつくりあげたことを理解できる。 ・ヨーロッパ世界の地理的特質を把握し、フランク王國の形成やヴァイキングの活動を理解できる。 ・ビザンツ帝國の盛衰と、ギリシア正教圈の拡大を理解できる。 ・封建社會の成立から十字軍前後のラテン＝カトリック圈の動向を理解できる。 ・スコラ学や大學の成立など、キリスト教世界のなかの文化の特色を理解できる。 ・遊・西夏・金などの諸民族の動向と宋の政治・産業・文化を理解できる。 ・モンゴル帝國の成立から元の中國支配までの動向と東西交流について理解できる。 ・海域東南アジアと大陸部での諸王朝の動向と文化の特色を理解できる。 ・中國商人・ムスリム商人の活動とモンゴル帝國による陸海一体化した交易の在り方を理解できる。 ・フビライの日本襲来を、朝鮮半島と日本列島との動向から理解できる。 	①②③		
検定資格(時期) 諸費用(予定)	なし				
履修にあたって	何時、どこで、誰が、何をし、どうなったかに心がけ理解するとともに、同じ時期に他の場所ではどのようなであったかも整理できるようにしよう。				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		日本史B	単位	3	履修区分	選択
対象学年・類型・コース		2年普通科(選択者)総合学科国際文化系列(選択者)				
使用教科書		新選 日本史B (東京書籍)				
目標とする生徒の将来像		①我が国の歴史の展開を、諸資料にもとづき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。 ②各時代の特色とその変遷の総合的考察を通じて、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。 ③歴史的思考力をつちかい、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う				
評価の観点		①定期試験 ②授業中の関心・意欲・態度・発問の観点等 ③単元ごとに実施する小テストなど				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回定期試験	第1章 古代国家の形成と貴族文化の誕生 1. 原始社会の生活と文化	○気候や地形、動植物相・植生の変化などの自然環境に着目し、人々の食料獲得方法や道具の変遷、呪術的風習、地域的な差異等を学ぶ。	定期試験 ノート提出		
	第2回定期試験	2. 農耕社会の形成と大陸文化の摂取 3. 律令国家の形成と古代文化の展開	○集落立地、食料獲得方法と食生活の変化、富の蓄積、習俗や墓制の推移等の社会の変化を学ぶ。 ○小国の形成から大和王権にいたる過程と古墳文化の特色について学ぶ。	定期試験 ノート提出		
2 学期	第3回定期試験	4. 摂関政治と文化の和様化	○平安時代初期に、律令体制の再建が進んだことを学ぶ。 ○唐文化を消化した新たな文化が発達したことを学ぶ。 ○藤原氏による摂関政治が始まったことを学ぶ。	定期試験 ノート提出		
	第4回定期試験	第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ 1. 中世社会の成立 2. 武家社会の形成と東アジア	○鎌倉幕府が、二元的支配からしだいに公家政権より優位に立つようになっていったことを学ぶ。 ○元寇の前後、宋銭の流入によって貨幣経済が進展したことや鎌倉幕府内で得宗の力が強まったことを学ぶ。	定期試験 ノート提出		
3 学期	第5回定期試験	3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 1. ヨーロッパ文化との接触と国内統一	○大航海時代という世界史的背景のもと、日本に鉄砲やキリスト教が伝来したことを学ぶ。 ○織田信長・豊臣秀吉による天下統一の過程と、秀吉が実施した検地・刀狩・朝鮮出兵について学びます。	定期試験 ノート提出		
検定資格(時期)		特になし				
諸費用(予定)						
履修にあたって		ただの暗記教科ではなく、「なぜ?」という歴史的な疑問を持って授業に臨むことが大切である。歴史が苦手な生徒でも、授業内での問に積極的に答えることで、苦手を克服することができる。				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		数学Ⅱ	単位	4	履修区分	必履修・必修・選択
対象学年・類型・コース		2年普通科 文系				
使用教科書		数研出版 新編 数学Ⅱ 改訂版				
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算力と、基本的な問題解決能力が身につけている ・数学を利用して、身近な事象を考察する力が身につけている 				
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査による評価80点分 ・授業の取り組む姿勢、課題提出、小テストの結果を総合的に考慮した20点分 				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回定期試験	第1章 式と証明 1. 式と計算 2. 等式・不等式の証明	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の復習 ・展開公式、因数分解ができる ・恒等式と方程式の違いを理解できる ・等式や不等式が証明できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算を理解し、意欲的に問題を解こうとしているか ・定期試験 ・課題 		
	第2回定期試験	第2章 複素数と方程式 1. 複素数と2次方程式の解 2. 高次方程式 第3章 図形と方程式 1. 点と直線	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数の四則演算を理解する。 ・解と係数の関係を利用し、2次式を因数分解できる ・2直線の平行・垂直条件を理解して活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数と高次方程式の基本的な計算を理解し、意欲的に問題を解こうとしているか ・定期試験 ・課題 		
2 学期	第3回定期試験	2. 円 3. 軌跡と領域 第4章 三角関数 1. 三角関数 (前半)	<ul style="list-style-type: none"> ・円の方程式を理解する ・平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して求められる ・不等式の満たす解が座標平面上の集合として理解できる ・弧度法を理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・座標平面における円の表し方や一般角や弧度法が理解できたか ・定期試験 ・課題 		
	第4回定期試験	2. 三角関数 (後半) 3. 加法定理 第5章 指数関数と対数関数 1. 指数関数 2. 対数関数	<ul style="list-style-type: none"> ・三角関数のグラフやグラフの特徴を理解する ・加法定理を利用して、三角関数の値を求めることができる ・指数法則、指数と対数の関係を理解できる ・対数関数のグラフから方程式・不等式を解くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角関数のグラフを積極的に考察し、グラフの特徴が理解できているか ・指数・対数の基本的な計算を理解し、意欲的に問題に取り組んでいるか ・定期試験 ・課題 		
3 学期	第5回定期試験	第6章 微分法と積分法 1. 微分係数と導関数 2. 関数の値の変化 3. 積分法	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの定義、性質を理解し利用できる ・関数の増減と導関数の関係を理解し、極値や最大値最小値を増減表を用いて求めることができ、グラフが書ける ・不定積分の定義や基本性質を理解し、不定積分を計算できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・微分の定義やグラフとの関連性を積極的に考察しようとしているか。 ・積分を理解し、積分を利用して様々な図形の面積を積極的に求めようとしているか ・定期試験 ・課題 		
検定資格(時期)		数学検定(準2級程度)				
履修にあたって		<p>数学に苦手意識を持っている生徒も多いと思います。高校の数学はすべて内容がつながっていますので、しっかりと復習をしておきましょう。特に基本的な計算は訓練をしておくことが大切です。学び直しのプリントを活用して、復習もしていきましょう。</p>				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		理科・物理基礎	単位	2	履修区分	必履修・必修・選択
対象学年・類型・コース		2年・普通科				
使用教科書		東京書籍 「改訂 新編物理基礎」(物理3)				
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心と探究心をもって自然の事物・現象を物理学的に考察できる生徒。 ・目的意識をもって観察・実験を行い、結果から新たな発見を見いだそうとする生徒。 				
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> ①【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に積極的に参加したか。 ・提出物の作成に意欲的に取り組んだか。 ②【思考・判断】 <ul style="list-style-type: none"> ・物理学的思考の「過程」を行えているか。 ③【実験の技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験を安全に遂行できたか。 ・それぞれの操作の意味を理解し、正確にできたか。 ④【知識・理解】 <ul style="list-style-type: none"> ・物理学について、基本的な知識を身につけることができたか。 				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回 定期試験	1-1章：直線運動の世界 速さ ～ 等加速度運動(2)	・運動の表し方、相対速度、及び等加速度直線運動に関する基本的な概念や公式を学び、運動を解析する方法を身につけている。	①観察・提出物 ②観察・試験 ③観察・提出物 ④定期試験	A B C A B C A B C A B C	
	第2回 定期試験	1-1章：直線運動の世界 自由落下 ～ 1-2章：力と運動の法則 力の合成と分解	・等加速度直線運動をもとにして、多くの複雑な運動の理解に至ることを知り、運動の多様性と簡単な解析の方法を習得し、考察できる。	①観察・提出物 ②観察・試験 ③観察・提出物 ④定期試験	A B C A B C A B C A B C	
2 学期	第3回 定期試験	1-2章：力と運動の法則 作用・反作用の法則 ～ 抵抗力と浮力	・物体にはたらいている力を正しく見だし、運動方程式を立てることができる。 ・摩擦力、及び液体や気体から受ける力(圧力、浮力、抵抗力)について説明できる。	①観察・提出物 ②観察・試験 ③観察・提出物 ④定期試験	A B C A B C A B C A B C	
	第4回 定期試験	1-3章：仕事とエネルギー 仕事 ～ 2-1章：熱 熱の移動と保存	・仕事・仕事の原理・仕事率・エネルギーという基本的な概念を学び、力学的エネルギー保存の法則について成立条件を含めて知識を活用できる。 ・熱力学の基本について学び、法則・公式を活用できる。	①観察・提出物 ②観察・試験 ③観察・提出物 ④定期試験	A B C A B C A B C A B C	
3 学期	第5回 定期試験	2-1章：熱 熱と仕事 ～ 2-2章：波 振動する気柱	・波動に関する事象・現象についての基本的な概念を形成している。	①観察・提出物 ②観察・試験 ④定期試験	A B C A B C A B C	
検定資格		なし				
履修にあたって		<p>答えより、なぜそのような答えを導き出せるのかといった過程に意味があります。公式や法則を丸暗記といった学習ではなく、なぜその公式を使うのか、どういった法則なのかを「説明できる」を目標に学習を行ってください。問題演習の際も、式と答えだけではなく、言葉でその式を使う根拠や、説明を加えるよう心がけましょう。</p>				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		理科 生物基礎	単位	2	履修区分	必修・必修・選択
対象学年・類型・コース		2年 普通科				
使用教科書		『改訂 生物基礎』東京書籍(生基311)				
副教材						
目標とする 生徒の将来像		遺伝子・健康・環境など、日常生活や社会とのかかわりを考えるために必要な科学的素養を高める。				
評価の観点		①【関心・意欲・態度】生物や生物現象について関心を持ち、意欲的に考えるとともに、科学的な見方や考え方を身につける。 ②【思考・判断・表現】生物や生物現象を科学的に考え、的確に説明する。 ③【観察・実験の技能】生物や生物現象について観察・実験の基本操作を習得する。 ④【知識・理解】生物や生物現象について、基本的な知識を身につける。				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・方法 ※テスト=定期考査含	自己 評価	
1 学期	第1回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> 生物の基本単位は細胞であること。 生命活動のエネルギーはATPのエネルギーが利用されること。 代謝には必ず酵素が関与している。 	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C	
	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体がDNAであること。 DNAはヌクレオチドがつながった高分子化合物であること DNAの塩基配列が遺伝情報になっていること。 体細胞分裂の過程において遺伝情報が均等に分配されることを理解する。 細胞周期の過程を理解する。 	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート	A B C A B C A B C A B C	
2 学期	第3回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報とタンパク質の合成 	<ul style="list-style-type: none"> セントラルドグマを理解する。 ゲノムとは何か。 	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C	
	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境 体内環境を維持するしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境を理解する。 肝臓や腎臓を学び、体内環境を維持していること。 自律神経系による調節と内分泌系による調節。 	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート	A B C A B C A B C A B C	
3 学期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 免疫 植生の多様性と遷移 バイオームとその分布 	<ul style="list-style-type: none"> 自然免疫と適応免疫。 予防接種や血清療法といった治療法があること。 アレルギーや自己免疫疾患、エイズなどの発症。 植生の決定要因。 植生の遷移。 バイオームと気候の関係。 日本のバイオームについて。 	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C	
検定資格(時期) 諸費用(予定)		なし				
履修にあたって		授業で指示された問題は必ず解けるようにする。 いつも「なぜ？」という疑問は持ち続け、自分で調べる。 問題集の問題は、完全に理解できるまで繰り返し解く。 定期試験、模擬試験の問題は必ず取って置き、間違えたところは必ず出来るようにする。				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		保健体育・体育		単位	2	履修区分	必履修	必修	選択
対象学年・類型・コース		2年普通科							
使用教科書		なし							
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・時間やルールを厳守し、率先して与えられた役割を確実にこなそうとする、責任感のある生徒。 ・運動の技能や知識を身につけ、高めていくために努力を継続することができる生徒。 ・積極的に活動に参加し、自己表現や他者への配慮などのコミュニケーションをとろうとする、信頼できる生徒。 							
評価の観点		<p>①【関心・意欲・態度】 時間やルールを守ることや、仲間とともに積極的に活動へ参加しようとしているか。</p> <p>②【思考・判断】 技能の向上のために、工夫したり、仲間と協力したりしているか。</p> <p>③【技能】 自己の身体を思い通りに扱い、正確な技能が発揮できているか。</p> <p>④【知識・理解】 技能が向上するための身体動作や運動の特性を理解し、知識を理解しているか。</p>							
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価				
1 学期	第1回定期試験	・体づくり運動（体力を高める運動、集合、整頓、列の増減、集団としての行動）	・基礎的な運動能力を身につける ・大きな声を出すとともに、迅速に集団としての協調的な動きができるようになる。	①観察 ②観察 ③テスト ④観察	A B C A B C A B C A B C				
	第2回定期試験	・ソフトボール（男子） ・バレー（女子）	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
2 学期	第3回定期試験	・ペース走	・自己に適したペースを維持して走ったり、ペースの変化に対応して走ったりする。徐々に記録を向上させる努力をする。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
	第4回定期試験	・体づくり運動（体力を高める運動、体ほぐしの運動） ・バスケ（男子） ・サッカー（女子）	・体づくり運動 体動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力向上をはかる。 ・バスケ、サッカー 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
3 学期	第5回定期試験	・バスケ（男子） ・サッカー（女子） ・体育理論	・バスケ、サッカー 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ・体育理論 生涯豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識を身につける。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
検定資格(時期)		なし							
諸費用(予定)		なし							
履修にあたって		チャイム前には整列をし、大きな声で挨拶・体操をるところから体育の授業は始まります。お互いに100%で授業に臨みましょう。							

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		保健体育・保健		単位	1	履修区分	○必修	・必修	・選択
対象学年・類型・コース		2年普通科							
使用教科書		現代高等保健体育・現代高等保健体育ノート							
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> 健康問題に対して、課題解決をするために、自ら考え、発表したり記述したりできる生徒。 生涯にわたって健康を保持増進することができる知識を身につけ、それを活用することができる生徒。 							
評価の観点		<p>①【関心・意欲・態度】 健康問題に対し、興味・関心を持ち、個人であるいは仲間とともに積極的に課題解決をしようとしているか。</p> <p>②【思考・判断】 健康問題を解決するために、個人であるいは仲間とともに工夫したり、協力したりし、考えを見いだしているか。</p> <p>③【知識・理解】 健康問題やそれを解決するための知識を理解し、発言したり記述したりしているか。</p>							
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価				
1 学期	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 思春期と健康 性意識と性行動の健康 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶 加齢と健康 高齢者のための社会的取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 男女の体のしくみや性意識の違、結婚生活、高齢者の身体や社会的対策について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト 	<ul style="list-style-type: none"> A B C A B C A B C 				
2 学期	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 保険制度とその活用 医療制度とその活用 医薬品と健康 さまざまな保健活動や対策・大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策 	<ul style="list-style-type: none"> 医療・保険制度や環境汚染について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト 	<ul style="list-style-type: none"> A B C A B C A B C 				
3 学期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 環境衛生活動のしくみと働き 食品衛生活動のしくみと働き 食品と環境の保健と私たち 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活 	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全衛生面での対策、働くことの意義や労働問題について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①観察 ②観察 ③テスト 	<ul style="list-style-type: none"> A B C A B C A B C 				
検定資格(時期)		なし							
諸費用(予定)									
履修にあたって		現在や将来の日常生活をよりよく生活をしていくために必要な内容を学習します。発言やグループワークなども積極的に行い、主体的に授業に臨みましょう。							

平成 30 年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		コミュニケーション英語Ⅱ	単位	4	履修区分	履修
対象学年・類型・コース		2年普通科(文系)				
使用教科書		New Flag English CommunicationⅡ, Reading Gym, All Ears, Vintage				
目標とする生徒の将来像		言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うと共に、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。				
評価の観点		① 定期試験 ② 授業内小テスト ③ 授業活動への参加状況 ④ ハンコカード ⑤ 提出物				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回定期試験	Chapter1 Sakura Michi	・本文の内容を理解し、筆者の気持ちをくみ取ろうと努めることができる。扱われている文法項目を理解し、自分で表現できる。 ・内容を聞き取ることができる。 ・語法の問題を理解することができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・授業内小テスト ・ハンコカード		
	第2回定期試験	Chapter 2 Learning English Chapter 3 Interview with Rosa Parks	本文の内容を理解し、筆者の気持ちをくみ取ろうと努めることができる。扱われている文法項目を理解し、自分で表現できる。 ・内容を聞き取ることができる。 ・語法の問題を理解することができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・授業内小テスト ・ハンコカード		
2 学期	第3回定期試験	Chapter4 Communication Breakdown Chapter5 Rise Again, Motala!	本文の内容を理解し、筆者の気持ちをくみ取ろうと努めることができる。扱われている文法項目を理解し、自分で表現できる。 ・内容を聞き取ることができる。 ・語法の問題を理解することができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・授業内小テスト ・ハンコカード		
	第4回定期試験	Chapter6 A Delicious Japanese Culture : Bento Chapter7 Palme Oil from Diamond Island	本文の内容を理解し、筆者の気持ちをくみ取ろうと努めることができる。扱われている文法項目を理解し、自分で表現できる。 ・内容を聞き取ることができる。 ・語法の問題を理解することができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・授業内小テスト ・ハンコカード		
3 学期	第5回定期試験	Chapter8 I Made It! Chapter9 If I Hadn' t Met...	本文の内容を理解し、筆者の気持ちをくみ取ろうと努めることができる。扱われている文法項目を理解し、自分で表現できる。 ・内容を聞き取ることができる。 ・語法の問題を理解することができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・授業内小テスト ・ハンコカード		
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)		実用英語技能検定 年間3回(6月、10月、1月) 3級(3400円)、準2級(4800円)、2級(5400円)				
履修にあたって		<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業に、必ず辞書を持参すること。 ・授業内ではジェラルディーン先生との活動もあります。(週に1回) ・Vintageの小テストが授業内にあります。(週に1回) 				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		英語表現Ⅱ	単位	2	履修区分	履修
対象学年・類型・コース		2年普通科				
使用教科書		be English Expression 1 Standard 及び be English Expression Ⅱ				
目標とする生徒の将来像		言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うと共に、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。				
評価の観点		① 期試験 ② 授業活動への参加状況 ③ 提出物				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回定期試験	Lesson12 Lesson13 Lesson14	・使役的な意味で使う不定詞・原形不定詞について理解し、それを活用した表現活動ができる (L12) ・動名詞について理解し、それを活用した表現活動ができる。(L13) ・不定詞と動名詞の違いを意識して、表現活動ができる。(L14)	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
	第2回定期試験	Lesson15 Lesson16 Lesson17 Lesson18	・分詞の形容詞的用法について理解し、それを活用した表現活動ができる。(L15) ・分詞構文を含む、様々な形の分詞を理解し、それを活用した表現活動ができる。(L16) ・関係代名詞を理解し、それをを用いた表現活動ができる。(L17&18)	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
2 学期	第3回定期試験	Lesson19 Lesson20 Lesson21 Lesson22	・関係副詞、複合関係代名詞について理解し、それを活用した表現活動ができる。(L19) ・比較級について理解し、それを活用した表現活動ができる。(L20) ・最上級について理解し、それをを用いた表現活動ができる(L21) ・仮定法について理解し、それを活用した表現活動ができる (L22)	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
	第4回定期試験	Lesson23 Lesson24 Lesson25 Lesson1	・様々な仮定法について理解し、それを活用した表現活動ができる。(L23) ・接続しや that 節について理解し、それをを用いた表現活動ができる。(L24&25) ・動詞の時制に注意して将来について表現することができる。(L1)	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
3 学期	第5回定期試験	Lesson2 Lesson3 Lesson4	・動詞の文構造を理解して表現活動ができる。(L2) ・助動詞について理解して表現活動ができる (L3) ・名詞について理解して表現活動ができる。(L4)	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
検定資格(時期)		実用英語技能検定・年間3回(6月、10月、1月)				
諸費用(予定)		3級(3400円)、準2級(4800円)、2級(5400円)				
履修にあたって		・毎時間の授業に、必ず辞書を持参すること。 ・授業内ではジェラルディーン先生との活動もあります。				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	社会と情報		単位	2	履修区分	・必修
対象学年・類型・コース	普通科 2学年					
使用教科書	最新社会と情報 (実教出版)		7実教 社情302			
目標とする生徒の将来像	1. 情報化と情報産業の発展が、社会にどのような影響を与えているかを理解する。 2. 情報や情報モラルに関する基礎知識を習得する。 3. 情報活用能力を身に付け、社会の発展に寄与する能力と態度を身に付ける					
評価の観点	【関心・意欲・態度】情報の各分野に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【思考・判断・技能】情報の各分野に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、情報社会に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【技能】情報の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、情報の各分野に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 (知) 情報及び情報産業の意義や役割を理解している。情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回定期試験	・教科書 ・ビジネス文書検定模擬試験問題集	・パソコンの基本的操作方法や、ワープロソフトを使用したタイピングの基礎を学ぶ。希望者は7月の検定試験受験可能。	【技】【関】		
	第2回定期試験	・教科書 ・ビジネス文書検定模擬試験問題集	引き続きワープロソフトを十集するとともに、情報科社会の問題点などについて学習する。	【知】【関】【技】【思】		
2 学期	第3回定期試験	・教科書	・個人情報や知的財産権(著作権や肖像権など)について学び、自分自身がインターネットを使用する際のマナーについても考える。	【関】【思】【技】		
	第4回定期試験	・教科書 ・情報処理検定模擬試験問題集	・ハードウェアやソフトウェアの仕組みについて学ぶ。また、表計算ソフトを使った処理について実習する。希望者は検定試験受験可能。	【知】【関】【技】【思】		
3 学期	第5回定期試験	・教科書	・情報を伝えるための工夫や技術などについて考え、実習する。	【知】【関】【技】【思】		
	検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	希望者は、総合学科(情報観光系列)で実施している全国商業高等学校協会主催・ビジネス文書実務検定試験・情報処理試験を受験することができる。費用は級によって異なるが1000円から2000円。				
	履修にあたって	実習が多くなりますので意欲的な参加を求めます。機器操作が苦手な人・初めての人も基礎から行いますので安心して下さい。スマートフォン、著作権の問題など、これからの情報科社会で必要不可欠な知識も学びます。				